JRPみえばん
百万石
44
1980
5

伊勢市古市町
東　洋介
百万石編集部

文評フォトギャラリー 解説

妻よ、がんばれ

中西篤行

アットオドロク。アノアッチャンガ、コノマジメナ ブン。

「私たちは毎日、自分の生命をけずって働いています。私たちの半数はいつも何らかの病気中で、薬を飲みのみ、受診しながら勤務をしています。病気だからといって休むわけにゆきません。人手の足りない私たちの職場では、たちまち他の看護婦さんに迷惑をかけてしまうからです。自分たちの健康さえ破壊されているのにどうして患者さんたちの生命を十分に守ることができるでしょうか。」

「私たちは『患者回り』をするとき、患者さんに『お変りありませんか』と言わず、必ず『お変りありませんね』と、英語でいえば付加疑問形を使うのです。しかも『ね』と言ったときには、もうその病室にはとどまっていない。患者さんに『お変り』があっても、それを訴えるスキさえ与えない。そうしないと、仕事をこなしていくことができないのです。まるで『看護婦ロボット』みたい…。心の通った人間らしい看護なんて夢みたいな話です。」

「私が夜勤に出るとき、子供たちは泣いて私の後を追うんです。仕方がないので子供たちがテレビを見ているスキに、裏口からこっそり逃げるように出勤します。『ドリフターズ』なんかやってるときには、うまく抜け出すことができるのですが……。泣いて後を追われるときは、ホントに看護婦なんてやめてしまおう、と思います。」

以上の引用は、私が取材している山田日赤労働組合によせられた看護婦さんたちの生の叫び声である。組合大会で、看護婦集会で、そして経営者との団体交渉の場で彼女らは切せつと労働条件の改善を訴えつづける。私はカメラを向けながら涙をこらえる。胸の怒りをおさえる。

日本の医療の荒廃が社会問題となって久しい。政府は、何ら有効な施策を行おうとしない。わが国の医療制度は、看護婦・医師をはじめとする医療労働者の献身と犠牲の上に成り立っているといっても過言でないだろう。そしてそのしわよせが労働者の家族や患者の上にのしかかっている。

私の妻も看護婦である。人間の尊い命を守る「看護婦」という仕事に、彼女は生きがいと誇りを持っていると思う。だが職場の現実は――夜勤に追いまくられる「看護婦ロボット」だ。彼女の生きがいも誇りも、たちまちにして崩れ去ってしまう。

ある夜、仕事から帰ってきた妻が泣いていた。看護日誌を詳しく書きすぎた、というのである。私は不可解であった。科学的な看護を行うためにも、看護記録は詳しく記入した方がよいではないか。だがそれでは、患者から訴訟を起された時の証拠書類となり、病院側が不利になるというのだ。私はあまりの腹立たしさに言葉も出なかった。

妻は今夜も八度五分の熱をおして、夜勤に出かけていく。「私たちは尊い人命を守る看護婦なんだ」いつかきっと、彼女らが誇りをもって、そう言える日がくるだろう。そんな日が一日も早くくるように「妻よ、がんばれ」。

お久しぶりS子さんのたより

……ところで先日、又くらはし山へ参りました。何年振りにかまどの火をもやし、五右衛門風呂の火をもやし、煙い煙い思いいたしました。久方ぶりにけむりが目にしみました。山の中は良いものです。あなた様が、うぬのおく山へ お出かけになるのと にてるなと思いました。

"はし立ての くらはし山は険(さか) みて 岩かきかねて わが手とらすも"といわれているように相当にきつい勾配の山ですけど、中腹のお寺はえもいわれぬ天界でございました。このたびはじめて、自動シャッターというのを つかいました。 私のカメラ、小さなキャノンのポケットですが これをつけて、ジーッ カシャッというわけです。 けっこうとれまして、やきましして友人に渡しました。 とても喜んで、いつも喜ばれますが、私はシャシンが上手だとほめてくれます。……

……と知ってる私は いささかショックでした。でも、へたな私のシャシンがすてきすてきというのは おせじとしても、東さんのを あまりかんしんしてくれないの何故でございましょう。これはふしぎです。シャシン論は立派な本にいろいろ ありますが、私はどこかで人の心……!!!しばし足をとどめずには おきませんもの、やはり"心"でしょうか。ケイジュツというのは、これだ! というのが……

先日、このくらはし山の中腹の音羽山観音寺で徳川時代の蓮月(註)のお茶わんで おうす頂きました。この方の短歌が くぎ書きで お茶わんのまわりにかかれていました。歌は忘れましたが 散らしかたといい 手ざわりといい、落ちつきました、やはり何か私にピタッと その時したのでございましょう。お菓子は持参の赤福でございましたが、電気もうす暗い山の中の一夜は俗界をはなれて……

わずかな お金で行けるところですから ぜひ皆様にもと思います。桜井で下車、下居までバス(片道810円です)。山道は約1時間登りますとお寺です。(千手千眼十一面観音(鎌倉時代・重文)があります。近くに眼病に効くといわれる不動の滝がチョロチョロと水を落としています。今頃は くじゃく羊歯と卯の花が満開です。

うぬの奥山は ちょっと 私には不便ですけれど 東さんが いのちのせんたくに行かれる気持が わかるようで ございます。 シャシンも もちろんですけど しばらくこの俗界はなれる良さって たまりません。 天女はこの世にいて、天界もこの世にあるようで ございますネ。 そして四季おりおりに変化する天然の美って たまりませんね。 同じところへ何度もと 人にわらわれていますが、私の好きなところの ひとつでございます。……

……二の手紙は 先に申しましたように 絶対に百万石用、あるいは三重版用では ございませんゆえ……

……百万石からいろいろ、それぞれの方のお顔を想像させて頂いたり、県外や 鈴鹿や 思いもかけぬところからの文も楽しくよませて頂いて 人生の喜びとしています。 私の好きな柳生路(笠置から新薬師寺までのコース)の柳生さまとやら 共通の名前でも 心ときめくものですね。 それに篤斗雲さまの愛情こぼれる思いやり、もちろんお名前だけで お顔はわかりませんけど、学校の先生方、種々でまた時々伊賀の忍者も出てきたり(これは私のふるさと)楽みです。

どうか今後のご発展を……

(註 江戸末期の女流歌人 京都の人 夫の死後尼となる 陶器に自詠の歌をつけて作った。)